

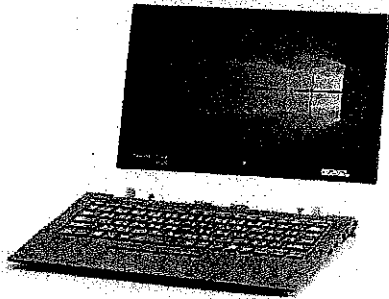
さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2021. 3. 25 (木)
No. 269

導入の困難さ浮き彫りに

立ち上げ時の大混乱 呼び出せぬアプリ 後回しにされるネットトラブル対策

タブレット



年度内の「ログイン」 動画視聴は負担

いよいよ現場にタブレットが配置され、年度内にログインと使い方の動画の視聴がすべての学校に指示されました。併せて推進役である「エバンジェリスト」の研修も同時に進められています。学年末の大変忙しいときに、この急務は大きな負担です。

暗中模索の状態です。市教組組合員も学級でのタブレット操作について授業を行いました。が、「子どもたちと実際に学習を進める上で多くの問題点が発生した」との報告が寄せられています。

収納庫からの取り出しが困難

市教委の説明では、「1日の流れ」の最初の過程に、「登校したら収納庫からタブレットを出

し、ログイン」とありましたが、全く現実離れした指示でした。そもそも上扉が大変重く、子どもが取り出した時点で、重い蓋に挟まれ大げがをしてしまいそうです。5個人持ち運びケースに入れ、教室まで運びますが、低学年では2人でこのケースを持つことになり、教室のどこに置くかも大きな問題です。

なお、この収納庫は区によって形式が違うようで、中学校であっても前扉で出し入れには向いているタイプもあるとのこと。市教委は取

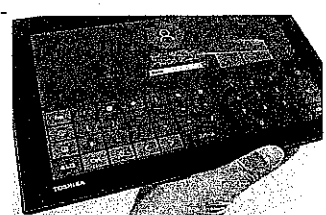
らないうちから、キーボードの出し方を教え、しかも、数字とアルファベットを交互に画面に出すのは、一苦労です。このログインは慣れることによって解消されるでしょうが、何回やっても画面が進まず、初期のウインドウズ画面を全員が1時間の中で出すことはとうとうできませんでした。ましてやその先の「OneNote」なる、基本アプリを呼び出すことはさらに困難であり、この時点で、タブレットによる一斉授業は成り立ちませんでした。「2面に続く」

デジタル教材の開発に修正し、現在は併用しています。

紙と電子媒体の違いを研究する群馬大の柴田博仁教授（認知科学）は「情報の全体像をつかみ、考えを深めるにはデジタルより紙の方が優れている。子どもの思考力を育てるにはデジタル教科書は不向きだ」と強調しています。東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授は「楽で便利では、脳は働かなくなる」と述べ、明治大学の齋藤孝教授は「紙の教科書は知識の基本」とし、ともにデジタル教科書は学力を低下を招くと強い警鐘を鳴らしています。

2018年PISAで行った主な読書方法別の読解力の平均点では、デジタルの47.6点に比べて、紙の方が60点高い53.6点という結果になったとされています。

デジタル機器より紙媒体で読む方が理解度が高いという紙の優位性を、わたしたち現場の教職員も感じているのではないのでしょうか。



アカウント (ID) とPWを入力してログインする

② GIGAスクール構想がめざすもの デジタル教科書を考える

行政のデジタル化を掲げる菅政権下、平井デジタル改革相は10月、教科書を紙から原則、デジタルに移行する方針を打ち出しました。子どもの学力や生活習慣に大きな影響を及ぼすだけに、丁寧な議論が欠かせないことは言うまでもありません。先行する海外の懸念される学力への影響例からも課題が見えてきます。

豪州シドニーの小中学校では、昨年、5年間続けてきたデジタル教科書の利用をやめ、紙の教科書に戻しました。子どもが「紙の方が集中できる」と感じていると判明したためです。台湾では2009〜11年、一部の小学校でデジタル教科書を試験的に導入したものの、保護者から「視力が落ちる」「鉛筆でノートに書く学習がおろそかになる」などの懸念の声が上がり、紙の教科書を維持し、理解を補うためにデ

ジタル教材の開発に修正し、現在は併用しています。

紙と電子媒体の違いを研究する群馬大の柴田博仁教授（認知科学）は「情報の全体像をつかみ、考えを深めるにはデジタルより紙の方が優れている。子どもの思考力を育てるにはデジタル教科書は不向きだ」と強調しています。東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授は「楽で便利では、脳は働かなくなる」と述べ、明治大学の齋藤孝教授は「紙の教科書は知識の基本」とし、ともにデジタル教科書は学力を低下を招くと強い警鐘を鳴らしています。

2018年PISAで行った主な読書方法別の読解力の平均点では、デジタルの47.6点に比べて、紙の方が60点高い53.6点という結果になったとされています。

デジタル機器より紙媒体で読む方が理解度が高いという紙の優位性を、わたしたち現場の教職員も感じているのではないのでしょうか。

署名反対導入時間労働変形

3月末で一区切りです

文科省は昨年の7月に、いわゆる「給特法」の一部を改悪し、公立学校に「1年単位の変形労働時間制」の導入を求める通知を都道府県、政令市に通知しました。さいたま市教組はこれまで、市教委との交渉の場でこの問題点を指摘し、導入の反対を要求してきました。市教委の回答は、「今のところその予定はない」（教職員人事課長）とのことでしたが、この間、多くの都道府県・政令市で導入を決定したり、検討を開始した

りしているとの情報が伝わっています。そこで、さいたま市教組は、以下の要請項目のもと、署名活動を行っています。

- 1 公立学校に「1年単位の変形労働時間制」を導入しないでください。
- 2 コロナ禍における教職員の長時間過重労働を解消する施策を講じてください。

各職場に署名用紙が配布されています。または、下のQRコードを読み込んでインターネット



ネットや携帯から署名できます

【1面からの続き】
これは、電波（Wi-Fi）環境によるものなのか、サーバーの容量によるものなのかわかりませんが、これでは全校児童、生徒が一斉に立ち上げることができず、到底不可能なことであると云えます。

タブレットに内蔵されているのではなく、ログインして各自がサーバーから呼び出すシステムだと思われま。そのことにより、全校で朝学習時にドリルに取り組みることとか、学習の一環として授業時に取り組むことは、全員が繋がらないため不可能であると言えま。

「協働学習・個別学習」を謳った大手教育産業会社によるこの学習ソフトですが、スタートの時点で破綻して

したり、動画を視聴したりすることの危険性を子どもたちに伝えてきましたが、今のところ個々に与えられるタブレットは無防備な状態です。手始めに「タブレットの使い方」の動画を視聴することが、これはGoogleチャネルに収められていまので、授業中にあらぬ動画やサイトを閲覧してしまう児童・生徒がいることは容易に想像できま。また、そもそも先に取り上げた状況で、全員が一斉に動画を視聴することは困難であると言えま。

さらには危惧されるのは、IT機器に興味のある子、詳しい子がパスワードを勝手に変更したり「ログアウト」など個人でインターネット通信のIDを取得していろいろなサイトに入り込んだり、SNSによるトラブルに巻き込まれたりする等、ネットによるトラブルの解決は後回しになっていくことも大きな問題であると言えま。

やがて家庭で使うことになった時の故障・破損などのトラブルをどのように対処するのか、また、市教組が以前から指摘している通信回線環境の整っ

ていない家庭に対してどのようにサポートするのも未解決です。毎日たくさん荷物を家から持ってきて、帰りに持ち帰る。この繰り返しの間に、タブレットの荷物が増えることも心配の要素です。

「GIGAスクール構想」は、政権から下された日本全体を揺り動かす政策です。これに対して、私たちはこれを国家のための施策ではなく、国民がITの時代を生き抜き、真の幸福のために利用できる機器として捉えて、タブレットによる学習を進めるようにしていきたいと強く願っています。

納得できぬSSSの引ぬき上げ
感染防止作業は終わっていない

このSSSさんの多くの方が、契約期限の切れる3月31日で勤務が終了し、学校への配属がなくなるのが分かりました。まだまだ新型コロナウイルスの脅威は続いており、現場は、学習保障に加えて、今でも多くの感染防止のための作業が求められています。

市教組は、新年度もこの制度を継続して、少しでも現場が感染の脅威から逃れられるよう、強く要求していきます。